令和５年度　池田町立池田中学校第３学年

総合的な学習

福祉体験学習

事業報告書

目　　次

福祉体験学習指導計画・・・・・・・・・・・・01
オリエンテーション・・・・・・・・・・・・・・03
障害を理解しよう①・・・・・・・・・・・・・・05
障害を理解しよう②・・・・・・・・・・・・・・10
障害を理解しよう③・・・・・・・・・・・・・・12
障害を理解しよう④・・・・・・・・・・・・・・14
支え合い住みやすい地域を作るために①・・・17
支え合い住みやすい地域を作るために②・・・19
福祉体験学習のまとめ・・・・・・・・・・・・22

第３学年　総合的な学習

福祉体験学習指導計画

池田町立池田中学校 第３学年

１．単元名　　福祉体験学習

２．目　標　・池田町の地域に根ざした取り組みについての学習や、さまざまな体験学習を通して、福祉に関する認識を高める。
・池田町の実態を踏まえ、福祉と自己、社会とのかかわりから、共生社会と自己の生き方について考える。

３．身に付けたい資質、能力、態度
・福祉に関する視野を広げ、考えを深める。
・社会貢献や共生社会について考える。
・将来の地域社会を担い支えようとする意識を高める。

４．活動計画（福祉･･･**全１５時間**）

月　日	活動内容	協力者
１０月　４日 （水） １コマ ※５校時 理科室	**オリエンテーション** ◎福祉体験学習の概要について ・授業概要の説明 ・福祉とは…自分の中の福祉のイメージは？ ・池田町の福祉の現状について考える	町社会福祉協議会 畠中さん 局長佐藤さん
１０月１１日 （水） ３コマ ※２～４校時 外・理科室 予備日１６日(月) 2~4校時	**障がいを理解しよう①　～池田のまちに出て体験してみる～** ◎高齢者・身体障がいについての学習 ・車いす体験 ◎視覚障がいについての学習 ・アイマスク体験 ◎車いすで生活している曽根さんから話を聞こう ・話を聞いての感想 (◎「誰もが住みやすい町とは？」グループワーク ※省略可：まとめの学習で振り替える)	町社会福祉協議会 畠中さん 曽根さん ※ボランティアの方や8丁目町内会のみなさんの協力 ※安全協会のみなさん
１０月１９日 (木) １コマ ※５校時 音楽室	**障がいを理解しよう②** ◎視覚障がいについての学習 ・視覚に障がいのある 三浦幸恵(ゆきえ)さんの講話	町社会福祉協議会 畠中さん 三浦鍼灸院 三浦幸恵さん

１０月２４日 (火) １コマ ※４校時 （３校時準備） 理科室	**障がいを理解しよう③** ◎聴覚障がいについての学習 ・聴覚に障がいのある林和美さんの講話 ・要約筆記をする中山さんの講話 ・要約筆記体験	町社会福祉協議会 畠中さん 林和美さん 中山さん

月　日	活動内容	協力者
１０月３１日 （火） ３コマ ※2・3・4校時 体育館	**障がいを理解しよう④** ◎障がいに対する考え方、見方を変えていくために ・若年性脳梗塞を経験した水口（みなぐち）さんの講話 ・合理的配慮の話 ・ボッチャ体験	町社会福祉協議会 畠中さん ポラリスの会 水口さん 千葉さん
１１月　９日 （木） ２コマ ※３・４校時 体育館	**支え合い住みやすい地域をつくるために①** ◎高齢者についての学習 ・認知症サポーター養成講座 ・認知症とは ・グループワーク認知症にかかわってみる。	町社会福祉協議会 畠中さん 町健康センター職員の方
１１月１０日 （金） ３コマ ※2・3・4校時 ﾏｯｸｽﾊﾞﾘｭｰ２階	**支え合い住みやすい地域をつくるために②** **～池田町の取り組みに学ぶ～** ◎高齢者についての学習 ・ふまねっと体験、講話(９０分) ◎ボランティア・町民活動支援ルームROCOCO２号店（ﾏｯｸｽﾊﾞﾘｭｰ２階）の見学（フロアカーリング等の体験） ※５校時に感想・まとめ記入	町社会福祉協議会 畠中さん ふまねっとサポーターのみなさん
１１月１４日 （火） １コマ ※４校時 理科室	**福祉体験学習のまとめ** ◎これまでの学習をふりかえって ・改めて、福祉とは。 ・自分が地域社会にどうかかわっていくか。 ・将来にわたって豊かに生きていくには。 ……自分の考えをまとめる。 仲間と交流を通じて、他の人の考えにふれる。 自己の生き方を見つめ直す。	町社会福祉協議会 畠中さん

オリエンテーション

日時　令和５年 10 月４日（水）５時間目（13：30～14：20）

場所　理科室

授業内容

・授業概要の説明

・福祉とは…自分の中の福祉のイメージは？

・池田町の福祉の現状を考える

1）「福祉」という言葉から連想するものをできるだけたくさん書いてみよう。

・介護施設
・老人ホーム（8）
・サポートしてくれるところ。
・高齢者の方々が行くところ
・おじいちゃんおばあちゃん
・老人（２）
・デイサービス
・コミュニティセンター
・保育園（３）
・学校
・病院（４）
・介護とか医療関係のやつ
・介護（7）
・年寄り（２）
・相談所
・ごみ拾い
・公共の福祉
・ボランティア（3）
・福祉センター（２）
・グループホーム
・保育
・幸福
・良いことをより良くする
・人助けをしている（２）
・子育てのサポート
・子ども
・高齢者
・日常生活
・ご年配の方
・おばあちゃん助ける人
・車いす運ぶ人
・高齢者を介護している人
・老人センター
・車いすの人を助ける
・盲目の人を助ける
・公共の場
・社会人
・子どもから年寄りまで
・町協力

2）今日の授業で考えたこと、感じたことを書きましょう。

・少子高齢すごい。人がいない。
・福祉っていっぱいあるんだなと感じた。
・少子高齢化がとても進んでいると感じた。
・福祉の幅が広いことに気付いた。
・高齢者のサポートを充実させていくことが必要だと思った。
・福祉に今は関係ないと思っていたけど、関係ない人はいないことが分かった。
・池田の人口問題が深刻なことが分かった。皆が協力して町づくりしているのが分かった。
・このままだと池田町の人口が減少して大変になることが分かった。産まれる人数より減少する人数の方が倍以上いて驚いた。
・池田はちょっとやばいけど、日本もやばい。福祉はそういった課題やらなんやらに取り組んでいる。私たち自身や高齢者も日常生活であれこれやるのが大事。
・老人だけ得しすぎ、税金はここにいっているのか。若者可哀想。その税金の半分は若者に使うべき。
・大体は思う通りだったが、自分にも関係がある、自分も認知症になると思うととても他人事ではないと思った。
・想像していたよりも、課題が深刻だった。自分には関係のないこととは思わず、積極的に物事にかかわ

っていきたいと考えた。

・人口が思っているよりもたくさん減っている。そして、人口はあまり増えておらず、28 人しか増えていなかった。福祉はとても大切でよいこと。

・少子高齢化を止めるのは難しいからこそ、お互いに支えあうとか小さなことからやっていくことがいいのだなと思った。

・人口がどんどん減っていく。近所に人たちで支えていかないと一人になり認知症になってしまう。

・福祉とは何かを初めて知った。池田に人が減少していること。高齢者が増えていることを知ることができた。

・福祉のイメージが変わった。池田町で産まれる人数は少ないのに、亡くなる人数は急激に増えていることに驚いた。

・池田町の高齢化率は４４．３％、生まれた人数は２８人、1 年間で減った人数は 159 人、少子高齢化が進んでいる。福祉とは幸福、幸せ、困っている人を助ける。人がより良く暮らしていくこと。全国で認知症の人は 700 万人。（65 歳以上の 5 人に 1 人）

・福祉は高齢者だけが対象ではなくて、すべての人に関係があると分かった。今後 100 年であんなにも人口が減るとなると、将来が不安。助け合いができるようにしておくことが大切。

・もっと生まれた人数が少ないと思っていたけど、28 人も産まれていて驚いた。152 人も引っ越すかなくなるかしているのは産まれた人数と全く調整できていないと思った。

・高齢化と人口減少が進んでいることを改めて実感できた。自分が高齢になったときはなるべく外に出て運動や近所の人と交流していきたいと思った。池田町で開催される福祉のお祭りにも行ってみたいと思った。

・自分にかかわりのないことだと思っていたけど、授業を聞いていくうちに福祉について新たな知識を得ることができ、池田町のことについても今まで知らなかった人口減少の理由など様々なことを学べた。

・池田町の高齢化はこれからも考えていくべき、福祉の大切さが分かりました。

障がいを理解しよう①　～池田のまちに出て体験してみる～

日時　令和５年 10 月 11 日（水）２時間目から４時間目（9：45～12：35）

場所　池田中学校玄関前～池田町役場

内容

◎高齢者・身体障がいについての学習

・車いす体験

◎視覚障がいについての学習

・アイマスク体験

◎「誰もが住みやすい町とは？」グループワーク

協力　８丁目町内会の皆様　池田町交通安全協会（安全確保）

曽根勝彦さん

幕別町札内で障がい者相談事業所の相談専門員をしている。車いすを使用し生活をしている。

1）池田の町の中を車いすで通行する体験をして、感じたことや気が付いたことを書こう。

・道がガタガタしていて動かしづらい
・傾斜があるところはやばい
・手動ドアが大変
・信号キツキツ
・タイヤがいうことを聞かない
・思う方向に進まないことが多くて大変
・車いすを乗っているときに押したり引いたりするドアが難しい。
・段差や坂でタイヤが動かなくなったりしたので、腕の力が必要だと感じた。
・右と左が分からなくなるから慣れなくて少々面倒になってくる。
・腕がパンパン、人がいない、町が静か、ドアが開けられない。
・坂やデコボコしている道が進みにくく、疲れやすい。
・腕が痛かった
・今日通った道がすごく凸凹で少し進むだけでも大変だった。
・平らな道が少ないから大変だった。
・中３の自分たちが１キロぐらいで苦労することを毎日やってすごいと思った。
・役場とかは走りやすかったけど、道路を走るとタイヤがかすったり、引っかかったりした。
・思っていたより全身を使った。左右に傾いているところで左右別の回転量にしないとまっすぐ進まないから大変だった。

・腕が大変だった。スピードと進む方向が難しい。ドアが大変。
・低いところに吸い寄せられていった。段差があってより怖かった。
・腕が痛くなった。段差ですぐはまるコントロールできない。ドアあけれない。
・腕がきつい、段差とかが怖い。
・自分が思っている方向と全然違う方向に行ってしまった。段差が怖い。坂を上ったり下ったりするのが難しい。
・いつも気にせず歩いているところが車いすだととても大変だった。操作が難しかった。
・一本の道でも少し上がったり下がったりが多くて、急な坂は下っている途中に違う方向に加速したりして止めてくれる人がいなかったら危ないなと感じた。
・少しの段差や上り坂でも登るのがきつく大変だった。思ったより前に進めず下り坂に持ってかれた。
・最初に出発したのに最後になるくらい大変だった。筋肉がついてないと辛い。
・とても疲れた。腕が痛い。進むのが難しい場所が多かった。忍足、引いたりするドアが多かったため、難しかった。
・少しの坂とか段差を上るだけですごく力が必要だった。役場までしか言っていないのにすごく疲れた。ドアを開けるのが難しかった。
・ちょっとした坂を上るときがきつかった。勝手に曲がったりして操作をするのが大変だった。
・道に穴ぼこがたくさんあって通行しずらかった。信号の時間が短い。溝も結構ある。
・行きたいところへ車いすを操作するのがとても大変だった。方向転換するときにどうすればよいのかわからなくなり焦ってしまって、車道に飛び出しそうになりました。
・こぎ続けていると疲れる。腕がパンパン。操作が難しい。

2）池田の町の中でアイマスクをつけて通行する体験をして感じたことや気が付いたことを書こう。

・凸凹が多い
・怖い
・周りに柱があると思って怖かった。
・道がガタガタだったらやばい
・自分は早く歩ける
・どこに何があるかわからない。
・どこにいるかよく理解できないからもどかしい。
・怖い、段差がドキッとした。
・指示役間違った。
・地面がガタガタになっていたり、段差のあるところが怖い。
・白杖をつくにあたって、点字ブロックが少なめなのかなと誘導するときに思った。
・周りの状況が分からなかった。一人だと通行できない。
・目の前が暗くて今いるところがどこなのか不安だった。
・目の前に何があるかわからないので、ずっと怖いまま歩いていた。
・車の音や標識が怖かった。歩幅小さくなったり腰が引けた。
・自分だけかもしれないけどまっすぐ歩いているのに斜めに歩いている感じがした。
・見えないという事がおもったより怖いことだった。
・点字ブロックや盲導犬などを頼りに歩くのはすごいと思った。
・見飽きた景色だったのに、目が見えないだけでこんなにも行きづらいと分かった。
・隣に友人がいたから進めたけれど、だれもいなかったら怖い。医師やコンクリート等足から伝わってく

る感覚がいつもより大きく感じた。
・少しの段差でも躓いてしまうため、気を付ける必要がある。曲がるときが怖い。人が隣にいるだけでも違う。
・影が怖かった。まっすぐ歩くことができない。道の草や木の枝が怖かった。
・信号の音とかがとても助かる。方向もわからず怖い。
・一人で歩くのは無理だったけど、電柱にぶつかると感じるくらいひやひやした。
・信号機の音があるのとないのでは全然安心感が違った。下り坂でも怖くて少し戸惑った。点字ブロックのありがたみを感じた。
・目が見えないと周りがどうなっているかわからないから、暗くなるだけで不安になる。
・案内してくれる人がいれば、まだ安心だが、一人だとすごく怖い。車いすよりアイマスクの方が個人的に楽だった。視覚障がいのある人が、どんな生活をしているのか気になった。
・少しの坂や段差が分からないからこわかった。池田の形が分かるから意外と早く歩けた。音に敏感になった。
・一人では絶対に無理だと思った。一人で歩く人はすごいと感じた。
・何も見えない。いきなり道が凹んでいて驚いた。車の音で信号が変わった合図が聴こえない。
・思っているよりも暗く、普段生活しているときより音が大きく聞こえました。
・怖い。段差につまずくと大変。

3）車椅子の人や視覚障害の人にとって、まちがどうなっていたら良いこもったか、できるだけ具体的に書こう。

【車いすの人にとって】

・進みやすい道
・道の高低差を無くしたほうがいい
・傾斜が急なところはきつい
・砂利道を無くす
・点字ブロックを無くす。
・段差があまりなく、なめらかな坂にしてほしい。
・車いす専用の道を作ってほしいと思った。
・地形のガタガタを減らすとわりと楽になりそう。
・歩道が平らだといい
・舗装してほしい
・自動ドアを増やしてほしい。
・段差をなくしてほしい
・平、なめらか
・坂があまりない町
・段差があまりない町
・きれいに道路が舗装されている。
・助け合える人々がいる。
・平らな道や緩やかな坂があった方がいい。
・段差がない
・自動ドア
・段差を極力減らす。
・道路のひび割れを少なくする。
・段差とか坂がない
・道がきれいだと動きやすい。
・町の砂利や木の枝、草を道からよける。
・道路のでき凹したところを減らす。
・段差が少ない
・道路がきれい
・自動ドアが多い
・道が平らで高低、段差が少ない。
・自動ドア
・平らな道を増やす。
・道が新しかったり、まっすぐだといい

・道路の左右の傾斜を無くす。石や枯れ葉などが道に無いよう、定期的に清掃したらいい。
・自転車が通る道みたいに車いす用の道があったらよさそう。なめらかな道のほうがいいと思った。
・できるだけ坂やデコボコを無くす、階段とは別に緩やかな坂を作ったほうがいい。
・凸凹の道を減らしていったらいいと思う。溝を無くしたらいいと思う。
・なるべく段差がない滑らかな道路。歩道だったらよい。
・道の段差やデコボコを平らにしてほしい。
・道が平らで舗装されていたら良い。周りの人も困っていたら手伝いするのが当たり前のような世の中になってほしい。

【視覚障がいの人にとって】

・白杖がつきやすい道
・指示役必須
・段差恐い
・地面がガタガタなところをきれいにしたらよい。
・狭い道を広くする。
・手動ドアではなく自動ドア
・段差があると不安になるので少し無くしてほしい。
・障害物を数える眼鏡とかあると楽になりそう。
・歩道を広くする
・盲導犬の普及
・広い
・周りに何もない
・音が聞こえる
・段差があまりない町
・歩道に電柱などの障害物がない町
・点字ブロックの上に自転車等の障害物がない
・音声でどこにいるかわかるようにしたらよさそう。
・段差がない
・自動ドア
・点字がある。
・歩道を広く。つまずくものを減らす。
・段差ない。
・段差を無くしたらいい。
・道路の凸凹したところを減らす。
・点字ブロックがある。
・歩道が広い方がぶつかったりしない。
・信号機には全部音を付けてほしい。
・点字ブロックをたくさん置く。
・歩道広くする。
・道の上にある黄色いやつがちゃんとある。信号で音が鳴るやつ。
・信号が青になったときや赤になったときに音がなっていたほうが良い。点字ブロックを道とは別につけたほうが良いと思った。
・信号の変わった音を車に負けないぐらいの音の大きさにしたほうがいいと思う。角を無くしたほうがいいと思う。
・困っていたら道案内をしてくれる人がたくさんいると良い。
・段差をなくしてほしい。音を加えてほしい。
・段差がない道とか声でしゃべってくれる信号機や看板があるといいかも。
・段差や高低差がないと歩きやすいと思った。足元に障がい物を無くす。

4）感想

・車椅子をこぐのが難しかった。町に困っている人がいたら積極的に声をかけたい。

・アイマスクたのしかった。車いす疲れた。
・視覚障がい車いすの大変さについて詳しく学び体験することができた。
・体験して、見ているよりもすごく大変だったので、まちの段差を少しでも無くしてほしいと思った。
・どちらにせよ慣れが必要ではある。
・誰かの助けが必要で大変だった。
・点字ブロックのありがたみを感じました。すべての動きが遅くなると感じました。
・車いすをなめていたとても疲れた。
・目が見えなくてめちゃくちゃ怖かった。
・車いすで通行しているときは夢中で気が付かなかったけど、終わったらすごく腕がパンパンだった。車いすにとっても視覚障害の方にとっても自由で暮らしやすい町がいいと思った。
・人々の助け合いは大切
・2つの体験をして足で歩けること、目が見えることのありがたみを知った。
・車いすが大変だった。段差ももちろんだが、左右で傾きがあるところが特に大変だった。町には改善できることがたくさんあった。
・どちらも別の苦労があったが、ドアや段差等共通した苦労もあった。少しでも暮らしやすい世の中になってほしい。
・車いすを使っている人たちは車椅子の特徴を理解していてかっこいいと思った。
・車いすとか盲目で、一人で町を歩いている人はすごいと思った。
・車椅子は腕が痛かった。周りが見えないから大変だった。
・正直簡単そうに見えていたけど、やってみると難しかった。
・思ったより大変だったけど楽しかった。自分で体感できてよかった。
・友達と体験するだけなら楽しいなと思ったけど、自分一人でいざとなっても足が使えなかったり目が見えなかったらとても不自由だと思う。
・体験は楽しかったけど疲れた。実際に使う人の大変さが分かった。
・はじめにアイマスク体験、最後に車いすを体験したが私はアイマスクのほうが楽だった。車いすで過ごすのは今の私からしたらすごくすごいことだなと思った。車いすもいろいろなものがあるという事が分かった。
・車いすは少しの坂や段差を通るだけで、すごく力を使った。アイマスクのやつは見えないから少しのくぼみでこけそうになった。大変だった。
・簡単そうに見えていた車椅子の通行も体験したら大変だと感じた。見えないことを、怖ろしく感じた。
・お互いが助け合う。
・車いすをこぐのは簡単そうだったけれど実際にはとても腕力を使ったり、坂が大変で、車いすを使っている人はすごいなと思った。

障がいを理解しよう②

日時　令和５年 10 月 19 日（木）５時間目（13:30～14:20）

場所　音楽室

内容　◎視覚障がいについての学習

・視覚に障がいのある三浦幸枝さんの講話

三浦幸恵さん

町内にある三浦鍼灸院で整体師をしており、盲導犬ユーザー。

夫と息子と一緒に仕事をしている。

事前に集めた三浦幸恵さんへの質問（事前に講師に把握していただいたものです。）

・視覚から見える色は黒ですか。
・視覚障がいについて思う事は何かありますか。
・普段どうやって過ごしていますか
・生活をしている中で一番大変なことは
・新しい場所に行くとき、どうしますか。
・便利なものは何ですか。
・方向が分からなくなったりとかしないのですか。
・足ぶつかったりしませんか。
・家の中ではどのように過ごしていますか
・点字ブロックはどのくらい役に立ちますか
・盲導犬が病気とかでいなかったらどうしますか。
・目が見えない人に付き添う人はいつもなにをしているか
・横断歩道を渡るときに気を付けていることは何ですか。
・盲導犬を飼う前はどのように暮らしていましたか。
・買い物のときはどうやって買い物をしていますか。
・生活をしていて、こんなことがあって助かったという事は何ですか。
・生まれつき目が見えないのですか。もし見えるようになったら何をしたいですか。
・点字ブロックの上に障害物があって困った経験はあるか。あったときどう思ったか。
・テレビではなくラジオを普段は使っているのですか？それともテレビをラジオ感覚で聞いているのですか。
・盲導犬とはいつも一緒なのですか。一緒でない時があるなら、そういう時はどうやって生活していますか。
・一番生活の中で安心することは何ですか。
・ヘルパーを利用しているか。
・お風呂とか料理はどうしているのか。
・盲導犬が脱走したことはありますか。
・最初から犬は自分になついてくれるのですか
・盲導犬のお世話はどうしているのですか。
・盲導犬との暮らしで大変なこと。
・盲導犬のことを１００％信頼できますか。
・家にいるときは盲導犬と歩きますか。
・盲導犬の世話はどうしているか。

三浦さんのお話を聞いた感想

・盲導犬に話しかけてはいけない理由や目が見えなくなる感じなどが分かった。生活の話を聞いた時に初めて聞いた言葉があったから知れてよかった。どこかで盲導犬ユーザーを見かけたときは積極的に声をかけようと思った。

・大変。アプリなどで生活している（便利になった）
・料理は自分で作ることが多いと聞いて驚いた。盲導犬のことについて詳しく知ることができました。点字ブロックは交差点で便利だが歩きづらいことを知って驚いた。
・毎日目が見えない中で生活をする恐怖感を耐える三浦さんは本当にすごいと思った。料理を一人ですることに驚いた。
・本人がそうであるだけかもしれないが、意外とジョークなどを交えていて楽しそうだった。盲導犬もそんなにすぐうまくやってくれるわけじゃないし、料理は作れないというわけではないなど、私の想像とは違う点が多かった。
・大変そうだった。信じて歩けるのがすごい。犬がとても賢そう。
・障がいのある人が工夫や努力をし、できるだけ自分の力で生きていけるようにしているのを見て三浦さんの人としてのすごさが少しでも分かったような気がします。盲導犬がかなりしっかりしていて感心しました。
・目が見えないととても大変なのだなと感じました。犬が人を介護していて素晴らしいと思いました。
・普段の生活がいかに大変か分かった。たとえ見えなくても、容器を覚えて判別したり、一回食べたりして工夫していることが分かった。どんな時であっても犬を１００％信じていないとダメという事が分かった。
・歩くだけでも集中しないといけないのは大変だと思った。駅のホームや横断歩道は危ないと知って、困っていたら少しでも手伝おうと思った。スマホは必要なんだと感じた。
・三浦さんは 42 歳の時に目が見えなくなってしまったけど、人によってはもともと早く目が見えなくなるから、盲導犬のすごさもわかったし、三浦さん流の判別が分かった。
・生まれ育った町ならまだしも、知らない町で外を歩くというのは本当にすごいと思う。買い物の話（特に支払）を聞いて、周りの人の大切さが分かった。お話をたくさん聞けて良かった。
・ドラマにガイドがついているという事に驚いた。スマートフォンの偉大さが分かった。たくさんの工夫をしていてすごいなと思った。だんだん視界が暗くなると考えていたからドーナツ型に見えなくなるとは思わなかった。自分で料理できるのがすごい。
・とても勉強になった。犬が人をここまで助けられるってすごいな。
・スマホの音声ガイドを使ったり、犬との共同作業を活用したりして生活していて、リスペクト（尊敬）の念が生まれた。
・普段の生活で大変なことが多かった。町中で困っていたら人に声をかけるって言われたから声かけられたら教えてあげようと思った。
・思ったよりアプリの量があって驚きました。犬もずっと隣にいてえらいなと思いました。仕事の話のとこは体のつくりと声でお客さんを覚えているといっていて驚きました。毎日学校に行くときに整体の前を通っているのですが知らなかったです。いい経験になりました。
・結構思っていたイメージと違った。自分で買い物したり料理もできる。テレビや映画を楽しめるのもいいし、スマホに便利なアプリがたくさんあった。一人で生活できているし、犬のことも信用していてすごいと思った。もしどこかで見かけて困っていたら声をかけようと思った。
・初めから視覚障がいだったわけではなく、徐々に見えなくなっていったのはとてもつらいと思うけど明るく話されていて驚いた。視覚障害の方のためのアプリなどが思った板よりもいろいろあった。

障がいを理解しよう③

日時　令和５年 10 月 24 日（火）４時間目（11：45～12：35）

場所　理科室

内容　◎聴覚障がいについての学習

・聴覚に障がいのある
　中途難失聴協会の林さんの講話

・要約筆記をする
　要約筆記サークルたんぽぽの中山さんの講話

・要約筆記体験

中途難失聴協会　林さん

中途難失聴協会は、はじめは聴覚に障害がなかったが徐々に聞こえなくなった方や、突然聞こえなくなるなどした方々を会員とした団体。

帯広要約筆記サークルたんぽぽ

聴覚障害などによりコミュニケーション障がいのある方々に対し、筆記やパソコンなどによりコミュニケーションの補助を行うことを主としている団体。

感想

・聴覚障害のことや会話の仕方、要約筆記、補聴器のことが分かった。話の内容を瞬時に要約して文字にするのが大変そうだと思った。緊急アナウンスや後ろの音が聴こえないのが危ないと思った。

・要約筆記難しい。聴覚障種類ある。字の大きさある。

・耳が聴こえないと声でコミュニケーションがとれなかったり、インターホンが聴こえない時があることを理解した。要約筆記の大変さを知った。

・人とのかかわり方が難しいことが分かった。いろいろな音が聴こえなくて大変だったことが分かった。たくさんの人の支えが必要なので、自分もこの仕事をしていろいろな人を支えたいと思った。

・会話（口で話すこと）はできていたので、聞き取れたが、本人はしゃべっていて言葉が正しいか不安にならなかったのか気になった。要約筆記は可読性とスピードの両方が大変だった。

・要約筆記は話の内容を集めて素早く書くのがとてもすごい。

・今日のお話を聞いて、手話だけではなく筆記を用いてのコミュニケーションもあると分かりました。聴覚障害の種類やコミュニケーションの仕方など、障がいについてより知ることができました。これからはできる限り障害の人たちを手足助できるよう心がけます。今日はありがとうございました。

・要約筆記はとても難しい。補聴器に慣れるのに時間がかかると聞いて驚いた。

・年々耳が聴こえなくなるのは考えるだけでつらいと思った。聞こえなくても補聴器を付けたり、会話をするときに相手の口元を見たりして工夫していることが分かった。要約筆記がとても難しくてサポートしている人の大変さも体験できてよかった。聴覚障がいにも、ろう・中途・難聴の３つの種類があることが分かった。

・コミュニケーション（会話）をするたびに字に起こすのは大変だと感じた。要約筆記が難しかったか、何時間も続けるのはすごいと思った。

・視覚障がいと同じく人によって大きさが違うから、早く治る方法が見つかればいいと思う。要約筆記のすごさをした。
・会話の仕方や緊急のサイレンが分からないのは日常生活で大変だと思いました。手話が使えない人もいるということに驚いた。
・コミュニケーション＝手話だと思っていたが、要約筆記というものがあることを知れた。やってみると案外大変だった。突然聞こえなくなってしまうのは怖いなと思った。改善策が見つかってほしい。話せることの便利さが分かった。
・とても大切だった。耳が聴こえなくても強く生きていてかっこいい！
・中失の人は要約筆記をすることを初めて知った。手話や筆談だけでと思っていたから新鮮だった。
・耳が聴こえないことを補うのは簡単ではないと思った。あの速度の話でも要約筆記難しかった。
・聴こえないと大変なことが多い。
・難聴、ろう者は知っていたけど、中途難失聴は知らなかった。手話のことも少しわかったし、要約筆記のことも詳しく知れてよかった。OHC やノートテイクを知れたのも良かった。要約筆記なら自分で出来そう。
・聴こえない人は手話というイメージがあったけど、林さんのように補聴器で理解できる人がいるのが分かった。要約筆記を体験したけど追いつくのが大変だった。
・前回視覚障がい者の方のお話と続けてお 2 人とも結婚されていて子供がいるというところに失礼ですが驚きました。障がいを持つ方でも他の人と変わらない生活が送れる世の中になると良いなと思います。
・聴覚障がいのこと要約筆記のことがそれぞれ分かりました。手話以外にもコミュニケーション手段があったのは驚きでした。カクテルパーティー効果は後で調べます。本日はありがとうございました。
・要約筆記は大変だった。早く書けないから話がはやいと苦労する。耳が聴こえないことでコミュニケーションや普段の生活がめちゃ大変だと思った。
・私の祖母は耳が聴こえないので同じような感じなのかなと思っていましたが、障がい者の方にもいろいろな方がいるのだなと感じました。要約筆記の体験をさせていただきましたがとても楽しかったし、面白かったです。
・最初は手話かと思ってどうやって話を聞くのか気になっていたけど、普通に話していて、聴覚のことを聞いていったら手話を使う人よりも話すことができる人が多いと分かって驚いた。聴覚障がいのある人のコミュニケーションの要約筆記をやって思ったことは、聞いたことを要約してわかりやすい字で書くのは難しかった。
・要約筆記が一度わからなくなるとついていけなくなってしまうから、本当にすごいと感じました。林さんは小学生の時に左耳が聴こえなくなっていた。大変だと感じた。
・この時代はすごく便利だと思っていたが、特定の人は便利ではないこともある。いまの技術で障害者に寄り添ったものを作ることが大切。要約筆記とても大変。
・右から左へ流れていく文字の羅列を紙に素早く丁寧に書くことがとても難しかったです。突然耳が聴こえなくなるのはすごく怖いなと思いました。
・要約をしている人はすごいなと思った。聴覚障害のある人の話を聞けて考えさせられました。

障がいを理解しよう④

日時　令和 5 年 10 月 31 日（火）2～4 時間目（9:45～12:35）

場所　体育館

内容　◎障がいに対する考え方、見方を変えていくために

・ボッチャ体験

千葉 絵里奈 さん

帯広出身の元 NHK パラリンピック放送リポーター。東京で暮らしていましたが、現在帯広に在住。たくさんのことに挑戦し続けている。1 歳で脳性まひになり手足に不自由がある。

NPO 法人みんなのポラリス

若年性脳梗塞当事者とその家族、そして障害者全般とその家族への相互支援を活動の中心としています。また、このような活動を通じて生まれた「ポラリスモデル」という地域モデルの普及に取り組んでいます。

ポラリスモデルとは、障害者と健常者、当事者と医療者というような、はっきりとした線引きがなく、お互いのストレングス（強み）を活かし地域で生活する、つまり誰もが同じテーブルにつき、双方向にコミュニケートして支え合う関係性の中で、一人一人が自分らしく生きていくための繋がりが構築されているコミュニティモデルのことです。

みんなのポラリスの活動理念は「みんなが良くなればいい」。この理念のもと、みんなの居場所づくり、そしてポラリスモデルを通じて新しい地域コミュニティの創造に取り組みます。

感想

・脳性麻痺についてや、合理的配慮が大事なことが分かった。合理的配慮がしっかりできるようにいろんなことを学ぼうと思った。ボッチャは知っていたけど意外と難しくて驚いた。電動車いすの手を離したらブレーキがかかるところが便利だと感じたが、身体が前に出すぎて前に転ばないか心配になった。

・ボッチャが楽しい。障がいにも種類がある。

・合理的配慮がないと差別につながる可能性があること、千葉絵里菜さんの将来の夢のこと、差別につながらないためにどのようなことが必要なのかなど、様々なことについて知ることができました。ボッチャは最初ルールも知らなくてできるか不安だったけど、とても楽しかったです。

・障害を持っていても関係ないという思いをもって将来の夢を持って頑張ったり、元気にボッチャをやったりしてすごい人だなと感じた。球が重く思い通りに投げれなかった。

・障がいにもいろいろな違いがあって、産まれた後に障がい者になってしまうこともある。年が増えていくにつれて自分の障がいは目立ってくる（自分に）ボッチャは椅子に座って投げるのが難しかった。

・ボッチャが思っていたより簡単だった。だけど座ってやるといきなり難しくなった。

・ボッチャを通して障がいに対して理解できるようになったと思います。差別を無くすためもっとより知ろうと思える機会になりました。

・ボッチャはとても面白かった。立ったのと座るのでは変わってくる。

・同じ障害でも症状はそれぞれ配慮しすぎてもだめだし、しなさ過ぎても良くないことが分かった。電動

車いすを使っているところを初めて見たので、前に体験した車いすよりも便利だと感じた。
・前向きな気持ちや親に対する感謝の気持ちがとても強く感動した。座ってするときと立ったまますると きでは違った楽しさや難しさがあって面白かった。差別はなくなるべきだと思った。
・千葉さんのような人もいれば、そうでない人もいることが分かった。合理的配慮をためらいなくできるようになればと思う。
・立ってやってみるボッチャと椅子に座ってやるボッチャでは目線や投げ方が違ってとてもびっくりした。脳性麻痺といっても人によってさまざまだという事が分かった。
・とてもシンプルだったが楽しかった。体も使えて、頭も使える。障がいに対しての向き合い方がとてもすてきだった。たくさんの夢を持っていてすごいと思った。ボッチャの球が思ったよりもしっかりしていた。合理的配慮が自然にできるような人になりたい。
・とてもボッチャ楽しかった。話も分かりやすくてよかった。
・ボッチャは改めてやってみると難しかったけど楽しかった。優勝できたことがとてもうれしかった。
・意外と座っていてもボッチャができた。
・座ってボッチャするのと立ってするのでは違った。
・脳性麻痺や合理的配慮は聞いたことはあったけど意味とか内容は知らなかったので知ることができてよかった。ボッチャも難しかったけど 2 位に慣れてうれしかった。
・障がい者と聞くと、自分たちとは違うと区別してしまうことがあったけど、みんなと同じだし合理的配慮という言葉を聞いてそうだなと思った。ボッチャは難しい競技だというイメージだったけど簡単にできてとても楽しかった。またみんなでボッチャをやりたいと思った。
・合理的配慮が法律だと知らなかった。池田町にボッチャをするチームが 6 つもあることに驚いた。
・色々な人たちの話を聞いてきてやっぱり人それぞれ症状の重い軽いたあることがはっきりしました。合理的配慮のことを初めて知り、それぞれにあったことをしていくのが本当に大切だと思います。ボッチャも楽しかったです。
・脳性麻痺やそれ以外の障害は人によって違う症状なのだと思った。合理的配慮ができるようになるためにも、その人のことを知っておいたりできるようになるといいと思った。ボッチャはすごく難しかった。
・絵里菜さんは自分の意思に関係なく足が動くので足を止めておくなど、自分が生活しやすいように工夫知っているのだなと感じました。ボッチャは初めて体験しましたが、とても面白くて楽しかったです。ボッチャがパラリンピックの競技だというのも、絵里菜さんがパラリンピックのリポーターだったというのもとても驚きました。
・脳性麻痺のことや、ボッチャのこと、差別のこと、合理的配慮のことなどを話してくれた。電動車いすに乗っていた。初めてボッチャをやってみて思ったことは、最初難しいとか面白くないと思っていたけどやってみたら面白かったし、そんなに難しくもなくてすごく楽しめた。3 位になれてうれしかった。
・脳性麻痺は人によってそれぞれ違う症状が出ることが分かった。千葉さんは小さい時からずっと車椅子で大変だと感じた。
・まず、障害を持っている自分に違和感はないといっていたことに驚きを感じた。障がいを持っていても人間であり私たちと一緒なのは変わらないと感じた。
・障害を持っている人も十人十色で様々な人がいるという事を知り、持っている人もっていない人が平

等に生活できるように活動している千葉さんやポラリスの皆さんがすごいなと思いました。ボッチャはとても難しかったです。

・差別を無くすためには自分たちに何ができるか考えることができた。合理的配慮という言葉を初めて知ったから勉強になった。

支え合い住みやすい地域をつくるために①

日時　令和５年 11 月９日（木）３～４時間目（10:45～12:35）

場所　体育館

内容　◎高齢者についての学習

・認知症サポーター養成講座

・認知症とは

・グループワーク認知症にかかわってみる

池田町地域包括支援センター

池田町保健センターの中にある機関で、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関。特に近年では認知症の方々が地域の中で安心して生活できるように地域全体の支援に力が注がれている。

感想

・親や兄弟がもしなったときに放っておくとかは市内で寄り添って介護しようと思った。認知症の症状内容もわかりやすくて理解できた。ＢＰＳＤの方になったら症状が良くなるようにしっかり介護しようと思った。中核症状になったら困難であっても最善を尽くして介護しようと思った。接し方にもしっかり気を付けようと思った。

・早期の発見大事、脳の種類があるアルツハイマーが確立高い。

・認知症にはいろいろな病気があると分かった。道端で認知症の人が困っていたら自然と手助けする。

・認知症も症状を抑えたり、部分的に直したりするのは可能であるのが安心した。また、普通の健康的な生活で予防できるのが少し意外だった。

・認知症になって下手すると家族の仲が悪くなる。そう聞いてとても深刻なことが分かった。僕が認知症になったらすぐに近くの誰かに相談しようと思いました。

・自分の親や祖父たちがもし、そうなってしまうと考えて話しを聴いた時、すぐに自分が気付けるよう心構えができたと思います。すぐに人に相談します。ありがとうございます。

・症状は人それぞれだが、池田町は 10 人に 1 人が認知症と聞くと結構な人数が認知症又はその予備軍になっていることが分かった。認知症＝すべて忘れると思っていたけど最近の情報から忘れていくので、昔のことを覚えている人もいることが分かった。認知症はいつだれがなってもおかしくないことを知れた。

・認知症のことを知らないと強く当たってしまうこともあるのでとても大事なことを知った。みんなで認知症の人への対応の実演をしたおかげで分かりやすかった。実際の認知症の家族の話を聞いて家族の大変さが分かった。周りの人の対応で少しでも助けられることを学んだ。

・認知症は病気だと思っていたけど、脳の病気になるかもしれない原因というのが分かった。アルツハイマー病やレビー小体型認知症など分からない病気が出てきたので少し理解ができなかったかもしれない。誰でもなることが分かった。

・家族よりも本人の方が先に認知症かもしれないと気が付くという事がびっくりした。相手を驚かせたりしないよう声をかけるときはゆっくりはっきりわかりやすく話そうと考えた。

・認知症が思っていたよりも身近なものだった。自分や周りの人たちが認知症にならないように日常生活から気を付けていきたい。また、もし周りがなってしまったら適切な対応を取れるように努めていきたい。自分で気が付けないものだと思っていたが違っていて驚いた。
・ありがとうございます。
・認知症のサポーターは大変だと思った。演技はしたくない。
・自分ってまだまだ認知症への理解が足りていないのだなと実感した。
・大変
・アルツハイマーの他にも病気があるのを初めて知った。実際に発表してみたら難しいと思った。認知症への理解をもっと深めたい。
・家族より先に本人が自覚するのは確かにそうだと気づいた。認知症の人はなんであんなに混乱してしまう妥当と思っていたから、記憶の手やいろいろなことの説明がされて理解しやすかった。
・これから積極的に高齢者にかかわっていこうと思いました。
・歳は関係なく発症するのだと思った。一人一人症状も違い、対応とか助けることが大切だと思った。あたりを強くすると相手も自分もつらくなるのかなあと思った。
・今からどれだけ気を付けていても将来認知症になる確率があるという事がよくわかりました。認知症は「病気」ではなく「症状」とお話されていて私は勘違いしていたなと思いました。病気になってから認知症になることもあると知りました。認知症になっていしまっても治る可能性があるともお話されていたのでその時はあきらめずに頑張ろうと思いました。
・認知症でもいろいろな人がいると感じた。薬で進行を遅らせることができる。認知症になってしまうのは主に 2 種類あることを知った。
・認知症のイメージが変わった。病気ではないことも事故も起きる気がする。それが起きないように地域の人が大切になっている気がする。認知症は治ると知らなくて驚いた。
・認知症になり始めた本人が一番つらく怖いという言葉が心に響きました。私のおばあちゃんも認知症だったので本当はこういう気持ちだったのかもしれないと今になってやっと気づきました。
・認知症というのは本当に身近なもので、誰がかかってもおかしくないと思った。認知症の方々に対しても、傷つけないように接することが大切だと分かった。

支え合い住みやすい地域をつくるために②
～池田町の取り組みに学ぶ～

日時　令和５年 11 月 10 日（金）2～4 時間目（9：45～12：35）
場所　ＲＯＣＯＣＯ２号店（マックスバリュ池田店）
内容　◎高齢者についての学習
　　◎ボランティア・町民活動支援ルームROCOCO２号店
・ふまねっとを通した健康づくり
ボランティア・町民活動支援ルームROCOCO２号店の見学
マックスバリュ2階で介護予防事業やボッチャ交流会、歌声サロンなど様々な世代の方が活動し、居場所づくりや健康づくりをし、地域全体を元気にしようという施設。

1）私たちの住む池田町でのふまねっとの工夫や施設ができたことについての感想を書きましょう。

・介護予防や健康のために行動をとれることがすごいと思った。
・交流ができる。高齢者がたくさんいる中でこの工夫はすごい。
・ふまねっとを行うことで地域の人と交流ができ、頭も体も使って激しくない運動ができることも理解した。
・高齢者の人たちが楽しく交流できるので良いと思った。
・工夫などによって必要な資金が減っている、しかも池田町だけというのがびっくりした。
・みんな楽しそうで生き生きしていて元気をもらえた。
・色々な種類の施設があり、選択肢が多かったです。
・ふまねっとは友達に誘われたりしてできた。
・ふまねっとができたことによって、高齢者が楽しく運動できるようになった。
・池田町の高齢者が元気なのはこのような地域の人たちの協力や活動のおかげなのだなと思った。
・できてよかったと思う。ふまねっとに通うだけ半分も要介護認定率が下がるしいい運動になる。
・高齢者化がもっとも進んでいるという事は対策や予防を最もしていかないといけないわけで、とても合理的で活動している人はすごいと思った。
・笑顔が素敵だった。年に 200 も活動しているのがすごい。ふまねっとを通してつながりができている。ラダー3 つというシンプルなのに効果がたくさん。
・とても大切だと思った。ふまねっとは難しかった。
・空いている場所や町内会館などを使って活動することで新たな輪を作っていることに驚いた。
・高齢者の多い池田町にとってこういう施設ができたのはいいことだと思った。
・イベントたくさんあった方がいい。
・ずっとマックスバリュの 2 回はどうなっているのか気になっていたので、わかってよかった。皆さん明るくていい場所だと感じた。
・高齢者のみんなが元気に過ごせるようにふまねっとやＲＯＣＯＣＯができてよかった。
・高齢者には今日用事がある（きょうよう）が必要で笑うと納所宙になる確率が低いらしいと知れた。
・開いているところを使って皆が使える場所を作るのがいいと思った。交流がしやすいと思った。

・激しい運動ではなく、ゆっくり頭を使う運動なので認知症予防になっていそうだなと思いました。
・仲間たちと一緒にやっていて楽しそうだった。ステップを変えて頭を使わせていた。
・社会参加と交流で地域とつながりを深めていることが分かった。それによって健康が増進している。
・脳の体操になって楽しかった。孤独にならない。
・少しずつ時間を経て施設などの設備ができていったのだなと思いました。
・池田町は健康のために様々なことをしているのだなと思った。
・池田町は福祉関係のやつが多いと思ってましたけど、足りないことを初めて知りました。これからも活動頑張ってください。

2）ふまねっと会見や施設見学の感想を書きましょう。

・とても楽しかった。
・色々な体操あった。
・たのしく運動する工夫があって楽しめた。
・難しかった施設はとても広かった。
・簡単そうで難しいゲームがいっぱいあって楽しかった。施設にウォーキングコースなど運動ができるところがあった。
・考える～難しい。複雑だから早くなってしまう。
・足と手を一緒に動かすとよくわからなくなってしまうことがあったが、サポーターの人たちが優しく教えてくれてとても楽しかった。
・誰でも簡単にできる運動でよかった。優しく教えてくれて分かりやすかった。
・サービスの人や参加者の人もみんな楽しそうだった。毎日あんな感じなのだろうか。
・私も年を取ったらこういうことを大切にしていきたいです。
・ふまねっとを通して運動や人とのコミュニケーションをしているんだと感じました。
・運動ができたのもいいけど終わった後のハイタッチなどでコミュニケーションが取れたことも良かった。
・やってみると意外と難しかった。頭を使うから認知症対策になると思った。
・たくさんの施設があってお金を出さないでできるのがすごい。ふまねっとは頭を使うゲームがあるためとても楽しかった。
・色々なステップがあって大変だったけど楽しかった。音楽があった方がやりやすかった。
・たくさんの人のお陰でこの町がよりよくなっていることを知った。自分も積極的に人とのかかわりを持っていこうと思う。
・みんな楽しそうだった。他の体験もしてみたかった。
・サポーターさんや参加者の方もみんな楽しんでいて自分も楽しめた。優しく接してくださってうれしかった。
・難しいと思っていたけど、楽しくできたトレーニングたのしかった。
・元気なおばあさんたちで驚いた。思ったより難しくて焦った。
・ネットを踏まないという簡単な運動をリズムとかで工夫したりしていてすごく良かったです。将来お世話になると思うのでまたやってみたいです。
・ふまねっとは難しかった。歩くところやダーツがあるとは思わなかった。
・程よい疲れや達成感があってとても楽しかったです。

・少し難しいのかと思っていたけど、全体的に難しくなかった。
・一次予防と 0 次予防があることが分かった。
・最初緊張していたけどお隣の人が話しかけてうれしかった。
・マックスバリュの 2 回が思っていたよりも開放感が強く、すっきりとしていてよいなと感じました。
　ふまねっとは楽しんで活動できました。
・以外にも難しくて、でも楽しかったです。

福祉体験学習のまとめ

日時　令和 5 年 11 月 14 日（火）4 時間目（11:45～12:35）

場所　理科室

内容　◎これまでの学習をふりかえって

・改めて、福祉とは。

・自分が地域社会にどうかかわっていくか。

・将来にわたって豊かに生きていくには。　……自分の考えをまとめる。

仲間と交流を通じて、他の人の考えにふれる。

自己の生き方を見つめ直す。

1）「障害を理解しよう」②～⑤で特に印象に残っている学習はどれですか。②～⑤を選び、その学習を通して自分が学んだことを書きましょう

②障がいを理解しよう１　車イス体験・アイマスク体験（２３）

・視覚を奪われていると周りの状況が分かりにくい。信号前の点字ブロックが少し削れているため分かりづらい。

・操作難しい。事故多発。腕痛い。力の加減がすごい。目隠し、誘導人は良かった。指示大事。

・アイマスクをすると段差のあるところ、地面がガタガタなところが歩きづらく怖い。車いす体験をして、思う方向に進めなかったり、砂利道になると、もっと大変になったり手動ドアがなかなか開けれなかったりすることに気付いた。

・思ったより大変だったのでこの体験を生かして町中で困っている人を見たら積極的に助けようと思った。

・実際に体験してみないと分からないものはたくさんある。そしてそうした方々に向けての町の改良などが足りない感じがした。

・車いすで町中を移動するのはとても大変だった。ちょっとした段差でも登るのに苦労した。

・日々の日常生活の暮らしづらさのと、そのための工夫や知識を生かして生活していること。

・車いすはとても力が必要で大変だと感じた。目が見えないと何があるか分からなくて恐かった。

・車いすでの移動や目の見えない中での生活の大変さ。

・車いすの人にとって今の池田町の道は進みにくく移動しづらいと思った。人の助けが必要になる場面が多かった。

・普段歩いている道でも目が見えないだけで転びそうだった。車いすで移動したときは上り坂を上がるのが辛くて腕がパンパンになったから。

・車いすを使って生活するには体力、筋力が必要だと分かった。小さな起伏や石でも車いすを使うととても厄介だった。

・目の見えないことのこわさ。車いすで歩くのが疲れること。

・車いす難しかった。アイマスク前見えなかった。

・車いす体験をする前は正直楽しそうと思っていたけど、実際に体験してみると本当に大変で腕がパン

パンになった。助けてもらわないと大変だった。アイマスクも想像以上に怖かった。
・車いすに乗って体験して車いすの大変さもわかったし、アイマスク体験では目が見えないだけで感覚が全然つかめないし、付き添いをする方も全然慣れず大変だった。
・アイマスクをして視界が真っ暗な中道を歩くのはとても怖かった。特に車が横を通るときは一瞬轢かれる！という恐怖が大きかった。ので、視覚障害の方には積極的に声をかけることが大切。
・車いすで移動するだけでもすごく大変でさらに建物の中を移動するのは骨が折れました。バキバキに。道路整備してほしい。
・車いすの大変さがすごく分かった。最初の方に出発したのに一番後ろなってめっちゃ焦った。アイマスクを付けるのも周りが見えな過ぎて怖かった。
・車いすでは進むのが難しい場所が多くあり、とても大変だった。アイマスク体験は案内してくれる人がいれば安心だけど、一人だとすごく怖いんだろうなと感じました。個人的には車いすよりアイマスクのほうが楽でした。
・初めに車いすで役場まで行ったとき車いすは簡単かと思っていたけど少しの段差や坂を上がるだけでとても大変だった。アイマスクは少しの段差でも転びそうになるくらいちゃんと歩くのが難しかった。
・目が見えないというのは想像以上につらく不安なのだと感じました。車いすも手が疲れるので互いが互いに助け合うことの大切さを学びました。
・車いすを動かすのは意外と大変で難しかった。車椅子に乗っている人をサポートしていかなければならないと学んだ。

③障がいを理解しよう２　視覚障がいについて 三浦さんのお話（１）
・道に迷うとスマホに頼る。犬に帰るというと帰ってくれる。点字は交差点で便利。目が見えなくても料理ができる。

⑤障がいを理解しよう４　障がいに対する考えについて 千葉さんのお話とボッチャ体験（４）
・障害に対する考え、思いが千葉さんのお話で変わった。障がいを持っていても明るく元気な姿がとてもかっこよかった。
・平等にみんなが生活するための「合理的配慮」というものがある。本来持っているものを不当に扱うと差別になる。ボッチャの球が案外ずっしりしていた。
・支えあうことの大切さ。ボッチャは面白かった。
・ボッチャが世代や年齢関係なく遊べるスポーツだった。ボッチャのボールを調整するのが難しかった。

２）「支えあい住みやすい地域を作るために（高齢者に関する学習）」⑥⑦で特に印象にように残っている学習はどちらですか。⑥⑦から選び、その体験を通して自分が学んだことを書きましょう。

⑥支え合い住みやすい地域をつくるために１ 認知症サポーター養成講座（１１）
・世界の先進国でも大きな課題である症状のこと。認知症の方への接し方を考えること⇒肯定的な言い方に変えるなど。
・早期の発見大事。時間たつと悪化。話し方工夫。

・認知症はどうにもできないものかと思っていたが、そんなことはなかった。日常のかかわりや生活が予防には大切。
・もし身内が同じ状態になったとき、抱え込まないでしっかり相談して助けてもらおうと思ったこと。
・認知症の人にあったときにすべきことが学習できた。家族が認知症になると気が来ないように願う。
・意外と認知症についての理解ができていなかったこと。
・講座を聞く前と後で認知症の認識が大きく変わった。中核症状、行動、心理症状の違い。相談すること、認知症の方への接し方などを学んだ。
・認知症の人に対してすぐ起こるのではなく粘り強く教えてあげること、認知症はいつだれがあってもおかしくないことを知れた。
・講座を通して認知症だからわからないだろうや、何でもできないだろうと考えるのはとても失礼なことだと感じた。また、認知症は病気の中の症状だと知り驚いた。
・認知症である本人が一番自分のことをよくわかっていたという事に驚きました。もし身内でそういうことがあった場合の選択肢を増やすことができました。
・認知症の予防をしていてもなってしまうことがある。若い人でも認知症の予防になってしまう人もいる。

⑦支え合い住みやすい地域をつくるために２
ふまねっと体験と広がった経緯、ROCOCO2 号店見学（１５）

・「ふまねっと」を行うことで地域の人と交流ができ、頭も体も使って激しくない運動ができることを知れた。「ふまねっと」は平成 19 年にでき、週 1 程度で行っていることを知れた。
・運動不足の高齢者が気軽に来れる場所だからもっと作ってほしい。
・みんな仲良くがよく、いろいろな人から元気をもらった。自分が年を取ったらこういうことを自分からしていきたいです。
・ふまねっとはとても難しく、老人たちの勉強、そして健康に過ごせると感じました。
・日課や日々の目的があると生活が楽しくなることを学んだ。何歳になっても人とのかかわりは大切だと学んだ。
・やることは難しくはないのにいざやってみると意外とわからなくなって、通うだけで軽減するならいいと思った。
・高齢化が十勝で一番進んでいるため地域社会を維持するための方法を探しており、しっかり結果が出ているのは大人たちの努力からだと思った。
・笑顔や人とのコミュニケーションはとても大切。ふまねっとを通していろいろな人とのつながりができている。参加するだけで長生きしやすく、認知症になりにくい。
・認知症になってから助けるのではなく、認知症にならないように助けている。
・池田からどんどん広がっていったといっていてすごいなと思った。ふまねっとは難しい印象だったけど簡単に楽しくできた。そして今の池田の人口の状況などもわかった。
・ああいう交流の場があることを初めて知りました。ゲーム内容を興味深いものばかりだったです。
・使わなくなった場所を使うところがいいと思った。ふまねっとだけとかじゃなくて、他のこともできるところもいいと思った。ふまねっとたまににわからなくなる。

・ピンクのポロシャツを着ていた。ふまねっとの人たちはみんなにこにこしていて楽しそうにやっていた。大体の人は自分のためにやっているといっていた。
・雰囲気がとても明るく和やかだったのを覚えている。楽しく認知症予防ができていると感じた。
・池田町は高齢者のために多くのことをしていてサポートされているのだなと学んだ。もっと福祉について知りたいと思った。

3）「つながりのある社会」を作るために、自分ができること・みんなができること

【自分ができること】

・近所の人への挨拶を増やす
・福祉をする
・困っている人をできるだけ助ける。
・挨拶をする
・困っている人を見かけたら迷わず声をかける。
・自分の祖父、祖母としっかり関わる。
・近所の人と交流をしていく。
・挨拶を積極的にする。
・電車やバスで席を譲る。
・道聞かれたら答える。
・積極的にコミュニケーションをとる。
・あいさつ
・少しでも多く関わる
・なるべくいろんな人と関わっていく
・話す
・何か気付いたことがあったら見て見ぬふりをする
・障害のある人を支援する募金や町内で困っていたら積極的に助ける。
・挨拶
・困っている人がいたら助ける
・地域の人たちと交流する
・困っている人がいたら声をかける
・近所の人にあいさつすること。
・困っている人がいたら積極的に助ける
・その人を知ること
・その人をうけいれること
・普段からいろいろな人と関わる
・困っている人がいたら自分から助ける。
・挨拶などのコミュニケーションをとる
・積極的に人を助ける。“自分から”を心がける
・積極的に地域のイベントに参加する。
・ボランティアに参加

【みんなができること】

・つながりとは何かを考える
・困っている人を見かけたら助ける。
・イベント参加
・助ける
・周りの人とのネットワークを充実させる。
・楽しくする。
・協力する
・町内での関わる集まりや機会を増やす
・ボランティア
・自分の祖父、祖母としっかり関わる。
・祭り
・町で困っていたら助ける。
・「手伝って」と言われたら手伝う。
・相手を理解すること
・食べ物配り
・ボランティア
・話す
・積極的にかかわっていく
・その人を受け入れること
・なんかのイベントを作る
・地区でのイベントを考える

・やりすぎた支援をしないようにほどほどに助ける。
・一人ではできないことをその他の人が手伝って解決する。
・地域との交流をふかめ仲良くしてつながりを増やしつながりのある社会を作る。

4）福祉体験学習全体を通して学んだこと、福祉について学習前と考えが変わったこと、感想などを書きましょう。

・大変だった。車いす難しかった。　　・福祉　ふだん　くらしを　しあわせに
・福祉はそういう職につかないとあまり関わりのないことだと思っていたが、周りの人のサポートも大事と聞いたから、これからは他人だからで放っておかずに助け合いをしたいと思った。これからはつながりも意識してみようと思った。
・障がいにも種類がある。何かを失っても幸せを見つける。今はアプリや施設などからサポートししている。物が支えている。
・福祉は障害のある人、高齢者だけでなくすべての住民にかかわっていることを知った。福祉とは困っている人を助け、より良い暮らしをする。「㋐だんの㋒らしを㋓あわせに」が印象に一番残っている。
・障がいを持っていても関係ないという思いをもって将来の夢をもって頑張ったり、元気に過ごしていて障害を持っている人たちの気持ちを強く感じた。
・特定の人ではなく、みんなの福祉が大切で、町民での会やかかわりが少なくなっている現状を解決すれば盲目などの障害を持つ方にも良い場所になる。そのためにはまず挨拶などすぐにできることをしていくのが大切である。
・障がい者の印象がとても変わった。体に障害を抱えても、楽しそうですごいと思った。もし私が同じ立場に立ったらもう立ち直れないと思います。
・介護施設や老人ホームなどは、何でもやってもらっているイメージがありました。つながりは人と人のふれあいで、人と関わることが心の健康にとても良いことを学べたと思います。
・学習前は自分には福祉と関係ないと思っていましたが、学習を通していくうちに若い自分たちが老人や障がいにある方たちを支えていくべきだと学習を通して学ぶことができ、福祉は素晴らしいものだと気づきました。
・最初は認知症や障がいは大人やおじいちゃんおばあちゃんがなるものだと思っていたけど、いつ、どこで、誰がなってもおかしくないことだと知れた。ただ、認知症や障害になっても楽しいことや幸せなことはたくさんある。
・障がいを持っている人は生活しにくいところもあったりして暗い感じの人たちかと思っていたけれど、話を聞いているととても明るく、自分たちよりもずっと前向な気持ちの持ち主なのだなと感じた。助け合いで地域が成り立っていることを学んだ。
・最初は障がいになったら普通のくらしができない（誰かと暮らさないといけない）と思っていたが、福祉を学び障がいになっても普通に暮らせることが分かった。
・福祉がどれだけ社会に必要かが分かった。集団の力というのはとても大きいが何かきっかけがなければ変わらないのできっかけを大切にしたい。社会には本当に様々な人がいると分かった。
・学習前は福祉に対して「誰かがやるもの」や「自分とは無縁のもの」と考えていたが、とても身近であるという事を知れた。つながりをもつという事をいつも意識しながらコミュニケーションをとってい

きたい。また、相手のことを理解するという大切さを改めて感じた。自分から積極的に何事も取り組んでいきたい。

・ボランティアや挨拶を積極的に行うことで地域のことを知る機会になることが分かった。

・障害を持つ人や高齢者と接するには十分にその人たちを理解し、ちょうどいい感じの配慮をして接することが重要だと学んだ。

・一時間目の授業は休んでいたのでよくわからないままのスタートだったけど今は福祉についてよく考えられるようになった。意見交流の時に積極的にかかわるという言葉があって、ふまねっと体験の時に話しかけてくれた人と関わることができたので本当に大切だと思った。

・最初の福祉のイメージは障害者や年寄りとかだったけど、授業を受けていくにつれ、特定の人だけじゃないなとか、自分たちにもかかわることだなと感じた。これから困っている人がいたら声をかけ助けが必要だったら助けたり、交流したりしていきたいと思った。

・福祉は老人ホームや介護など高齢者の方を連想していたけど、地域全体が福祉にかかわっているんだと思った。また、身体が不自由な人はかわいそうな人ではなく頑張っている人だと感じた。地域についてよく知ることができた。

・福祉って聞いて介護力など最初は思っていたけど、普段の暮らしの幸せと聞いてびっくりしました。福祉はみんなのためにあり、大切なものだと今は思います。

・知ることや理解することは大切だけど大変だなと思った。いいことをしたと思っても、その人によっては少し嫌なことだったとかいうことがあるからかかわり方が難しいと思う。たくさん体験したけど全部難しかった。人によって違うことはたくさんあるから全部じゃなくても少しずつ理解できるようになっていきたい。

・福祉体験学習を通して学習前に比べて「福祉」「障害」「認知症」をよく知れたと思います。「福祉」とは「ふだんのくらしを幸せに」「障害」は車いすを使う人、目が見えない人、耳が聴こえない人等たくさんの人がいて、でも、みんな自分の幸せを探し続けている。まずは相手を知っていろいろな人と交流できたらいいなと思いました。

・最初は障害のある人はみんな困っていて苦しんでいると思っていたけど学校に来てくれた人たちは、みんな楽しそうに話してくれたり、ふざけていたりしていてすごいと思った。今は笑っているけど、目が見えなくなり始めたときや耳が聴こえなくなった時は絶望して笑うことはできなかったはずだけど、今は障害に立ち向かっていくのが大事だと思った。福祉はみんなが幸せな暮らしをすること。

・耳が聴こえない目が見えないなどの障害を持っている人でも幸せに暮らせることができると感じた。認知症はいろいろなことが原因で起こることが分かった。

・「障がい」と聞いたら可哀想といつも思っていたけど、」この 15 時間で私の思いは変わった気がした。障がいを持っていても私たちと変わらないことを学び、私はかわいそうという思いから私とあなたも変わらない人間だと思える気がしてきた。

・会話のキャッチボールをすることでコミュニケーションが格段ににとりやすくなったり、やろうとしないだけで出来ないわけではない人をできないと決めつけたりしないなど、考え方や一つの工夫で今見えていること以外の様々なことが分かるようになるのだと学びました。

・学習前と比べ、高齢者や障害のある方のことについて知れて、自分たちも配慮しながら生活していくべきだと思った。自分の地域の人たちとのつながりを大切にして生活していきたいと思った。

あ　と　が　き

池田町社会福祉協議会が池田中学校から、総合学習の時間(福祉体験学習)への協力依頼を受けてから11 年が経過しました。それ以前は、学校からの要望により、車いす、高齢者疑似体験セット、アイマスク等の貸出のみを行っていました。

池田町社協が授業全体に係わらせていただいてから、初めての会合で方向性についてお伺いしたところ、障がい擬似体験中心のカリキュラムだけでは、例えば障がいのある人たちのことを、『障がい』があることで苦労して生活している可哀そうな人たちという間違ったイメージを植え付けてしまう恐れがあるのではないか。場合によっては障がい者を理解するどころか、かえって差別感情を生み出してしまう恐れがあるのではないかと率直にお伝えしました。

そこで、池田町社会福祉協議会が普段からつながっている地域福祉のネットワークを最大限活用して、障がいのある当事者の方々、あるいは障がいのある方たちを支える専門職の皆様と、生徒の皆さんが直接話しするなど、交流する時間を作り、先生も生徒の皆さんも地域の人々と一緒に学んでいくスタイルを提案させていただいたのです。

講師の方々には、自身の紹介をしてほしいと依頼し、ひとりではできることと、できないことがあること、できないことは助けてほしいと思うことがあるということを、そのまま伝えてほしいとお願いしました。

そして、体験プログラムも見直しました。車いす体験は、以前は校内で実施していましたが、既にバリアフリーになっている校舎の中に、わざわざ段差や坂を作り、介助の体験をしてもらうという、とても日常生活とかけ離れたものでしたので、実際の町の道路や役場庁舎内での車いす体験やアイマスク体験を企画しました。

中学校地区の８丁目町内会の皆さんや交通安全協会のみなさん、役場庁舎内では役場職員の皆様の理解と協力のもと実際の生活に即した「障がい者擬似体験」を実施することができました。今では、福祉体験学習の中で一番印象に残る体験学習として生徒から選ばれています。

「障がい者擬似体験」に合わせて、障がい者ご本人に普段の生活上の不便さなどを聞くプログラムを作り、直接ご本人から生徒たちに答えていただく授業を行うことで、生徒も先生も地域に住む私たちも、より「障がい」についての理解が深まったことが、この報告書から読みとっていただけると思います。

地域の人と人がつながり、顔の見える関係づくりが地域福祉の推進に必要であり、今回の生徒たちの学びから、私達大人が学ぶべきものが詰まった冊子となりました。

ぜひ、学校や PTA などの教育関係だけでなく、保健、医療、福祉等の関係機関そして、町内会や老人クラブの役員の皆様等にも、池田中学校 3 年生の学びや感動体験を共有していただければ幸いでございます。

社会福祉法人　池田町社会福祉協議会
会　長　　小　山　眞　作